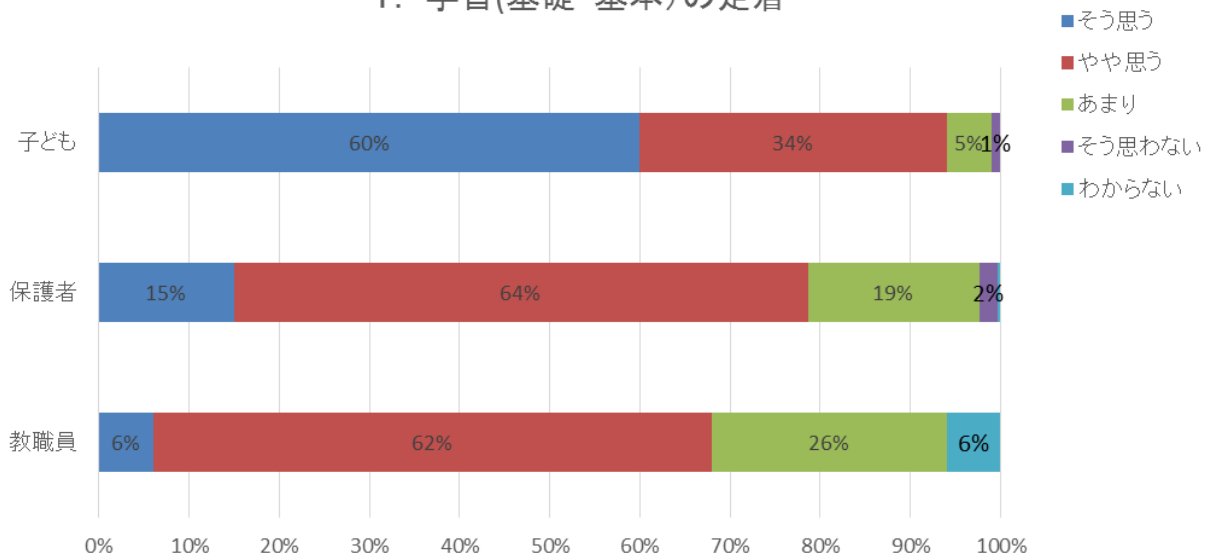


令和元年度（2019年度）
川崎市立宿河原小学校

学校評価アンケート
結果報告

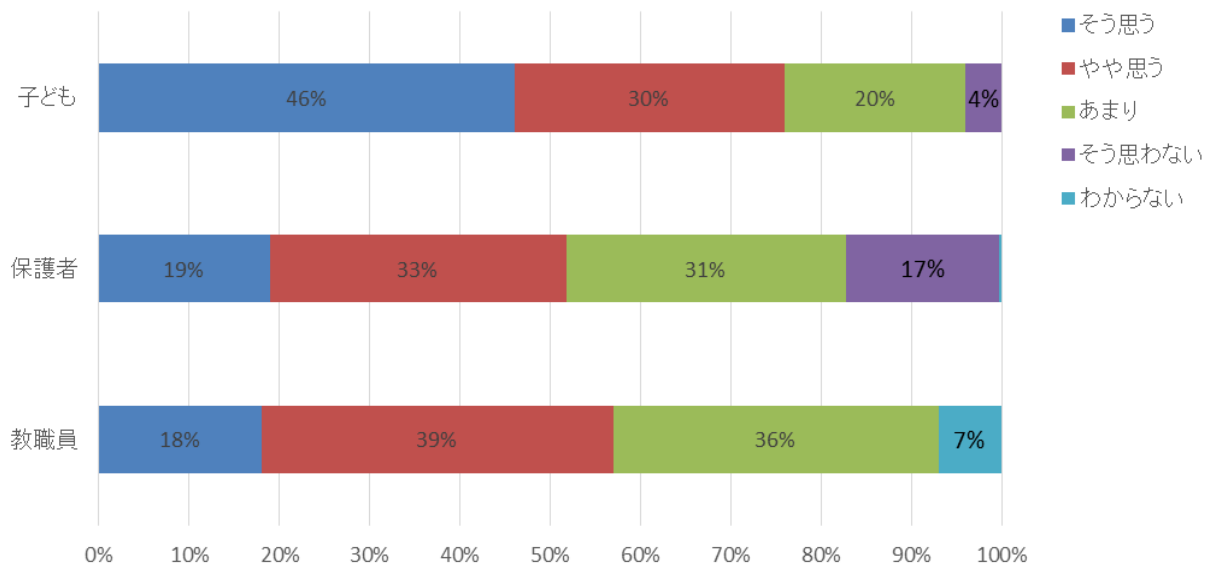
1. 学習(基礎・基本)の定着



1. 学習(基礎・基本)の定着

子どもの「そう思う・やや思う」は90%を超える。「主体的・対話的」を意識した授業を通して自信を深めていることが伺える。反面、教職員が60%台となり、教材研究や授業展開の工夫などの努力を教職員自身の評価に結びつかせることが今後の課題である。また、授業参観や「のびゆくすがた」を通して、保護者の評価をより高めていけるようにしたい。

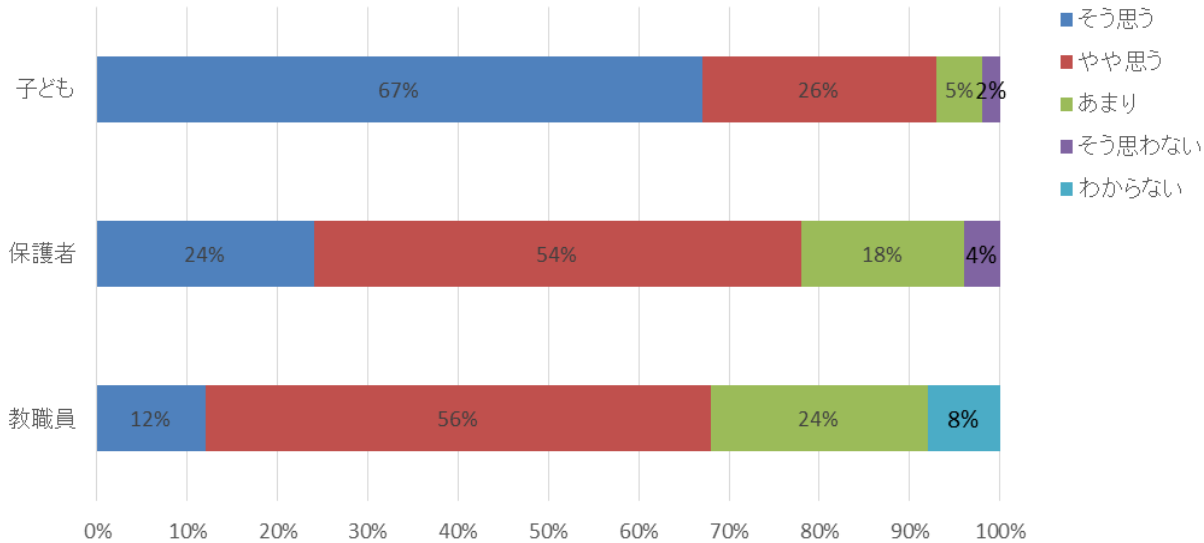
2. 読書習慣がついている



2. 読書習慣

始業前に、図書室で読書をしている児童を多く見る。木曜日に行われている朝読書をはじめ、読書をする時間が確保されている結果と考える。また、図書ボランティアさんによるお話会のイベントが定期的であり、図書館司書さん・図書ボランティアさんが常に図書室にいたことが、子どもたちの読書への興味関心を高め、読書習慣の定着につながっているものと考えます。

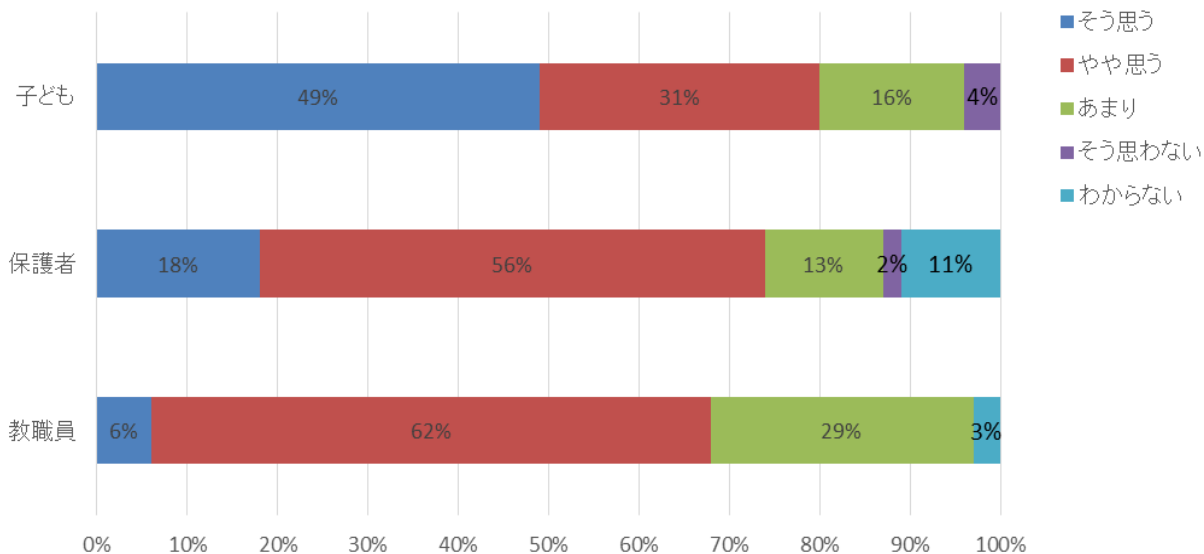
3. 宿題や家庭学習の習慣化



3. 宿題や家庭学習の習慣化

宿題や家庭学習については、子ども・保護者・教職員ともに、多くが習慣化していると感じている。宿題はほとんどの児童が提出できる。また、低学年では、保護者が宿題に丸付けをしてから出すことで定着を図ったり、高学年では、宿題範囲を指定し、1週間分の宿題を自分で計画を立てて行うなど自主的に取り組むように工夫したりして、習慣化を図っている。

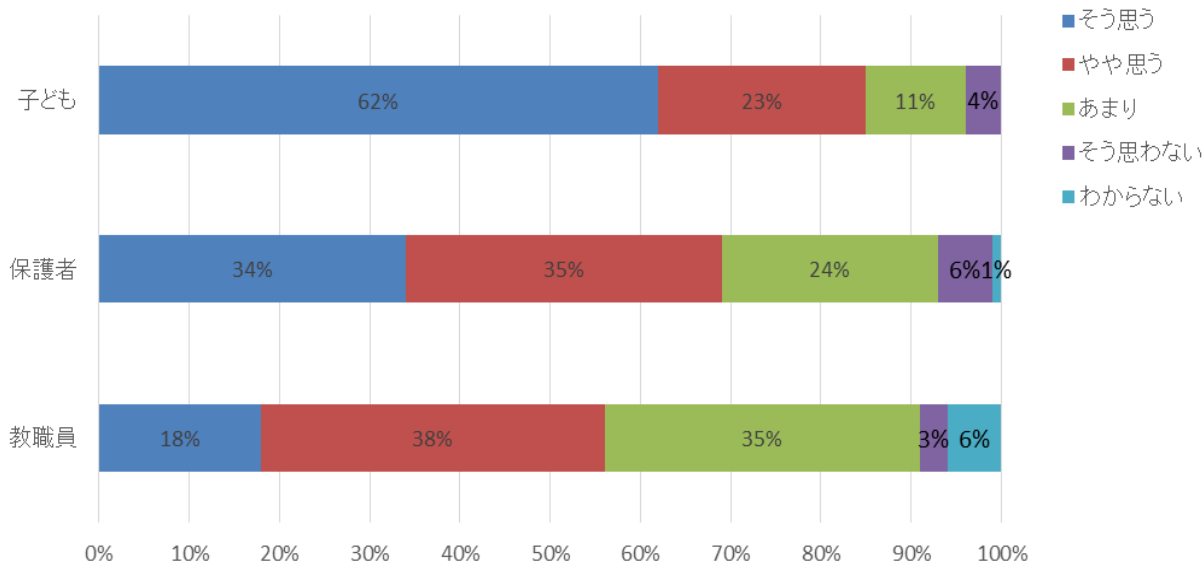
4. 児童主体の授業への取り組み



4. 主体的な授業への取り組み

教職員と児童の意識差が見られる。「主体的に授業に取り組んでいる」と感じている児童と教職員で約10%の差がある。子どもたちが進んで取り組むための45分を意識して授業を組み立て、授業を行った成果は出ているが、教職員自身がよりフィードバックを確実にを行い、自信の課題解決に向かうことで、より確実な成果に結びつくと考えている。

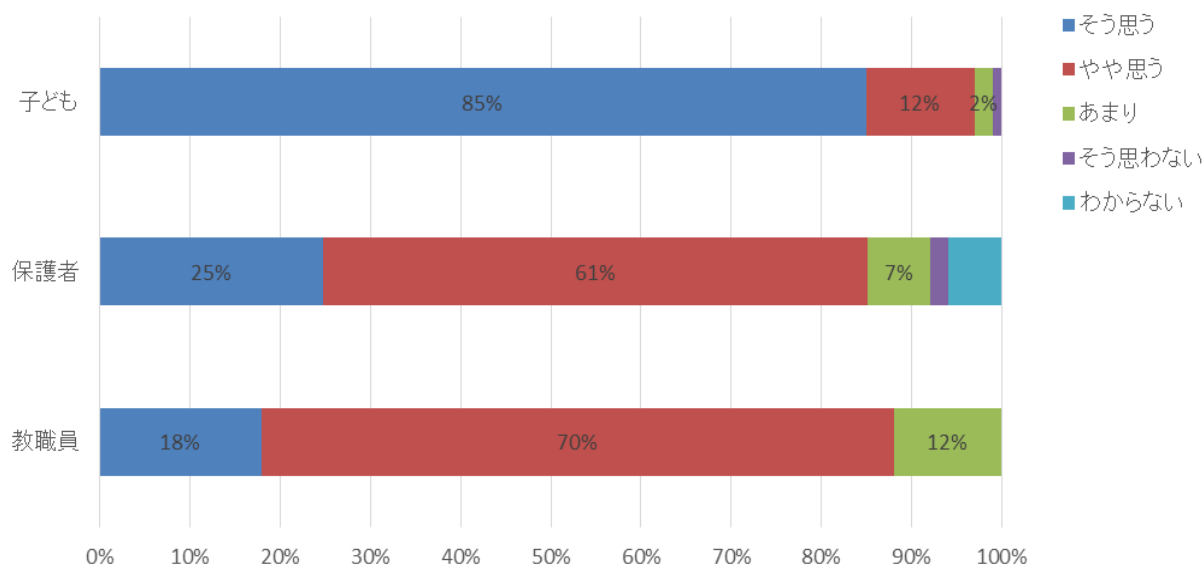
5. すすんで体を動かしている



5. すすんで体を動かしている

休み時間に校庭で元気に体を動かして遊んでいる姿が多く見られる。ボールだけではなく、ドッジビー・大縄も各クラスに配付され、遊び方も幅広くなり、工夫して遊ぶ姿が見られた。また、11月以降、運動委員会主催による大縄8の字跳び大会、N-1グランプリが企画され、各学年とも、継続して練習に取り組んだことで、縄跳びの楽しさを知り、朝の始業前や中休みに縄跳び遊びをしている姿が多く見られるようになった。来年度も子どもたちが進んで運動に取り組む活動を意識していきたい。

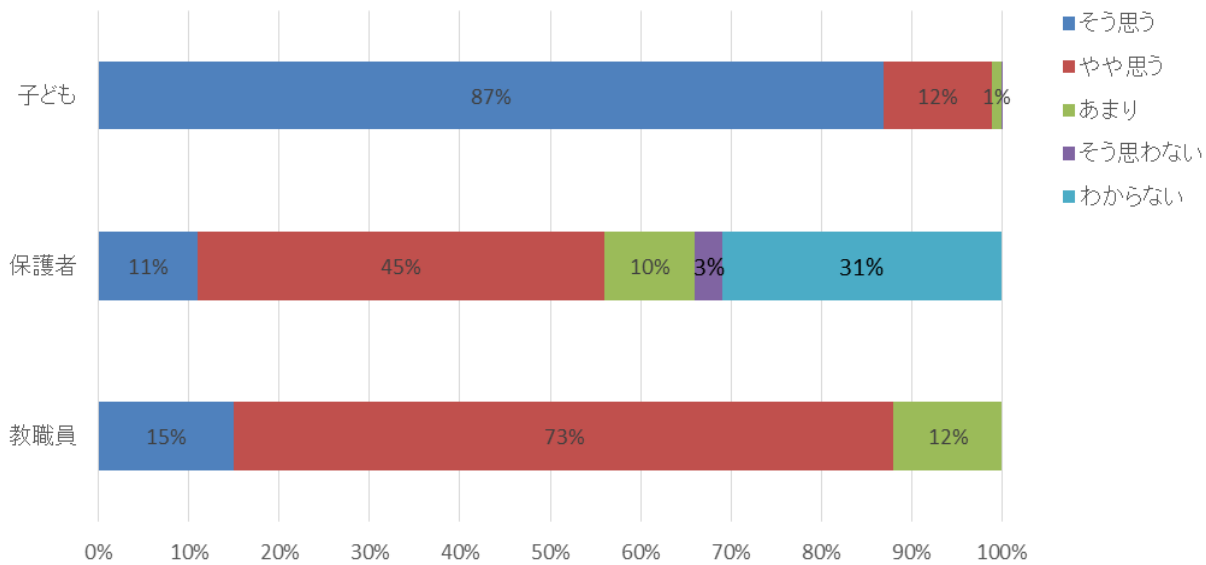
6. 学校内での安全に対する意識。



6. 安全に対する意識

「学校内は安全だ。けがや事故などに気をつけて生活している。」と思っている子どもたちが多いことがわかる。全体的に安全を最優先した教育活動がすすめられていたが、今年度はけがの多い一年であった。特に体育の授業中のけがが多く、教職員の意識を授業内容だけでなく、安全を意識した取り組みにも向けていく必要があると感じた。

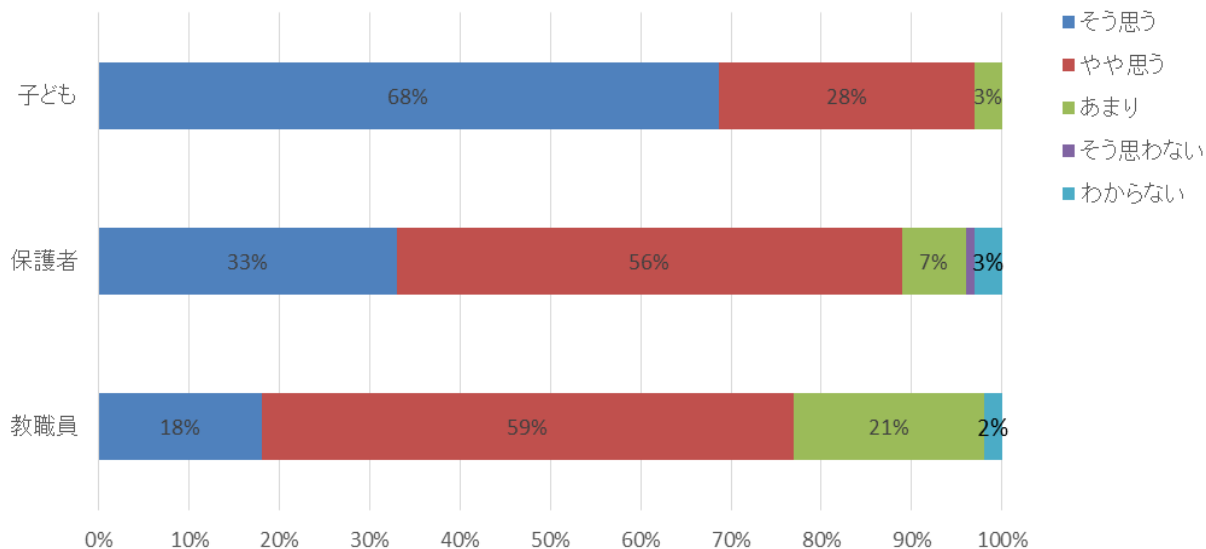
7. いじめへの取り組みについて



7. いじめへの取り組み

教職員は、共生*共育や道徳をはじめ、子どもたちの日常の表情や言動を意識しているため、評価も高い。児童もいじめはいけないものだという観点が根づいている。しかし、保護者にはいじめに対する取り組みを伝える機会が少ないため、意識に大きな差がある。授業参観やホームページなどで取り組みの様子を伝える機会を増やしていきたい。

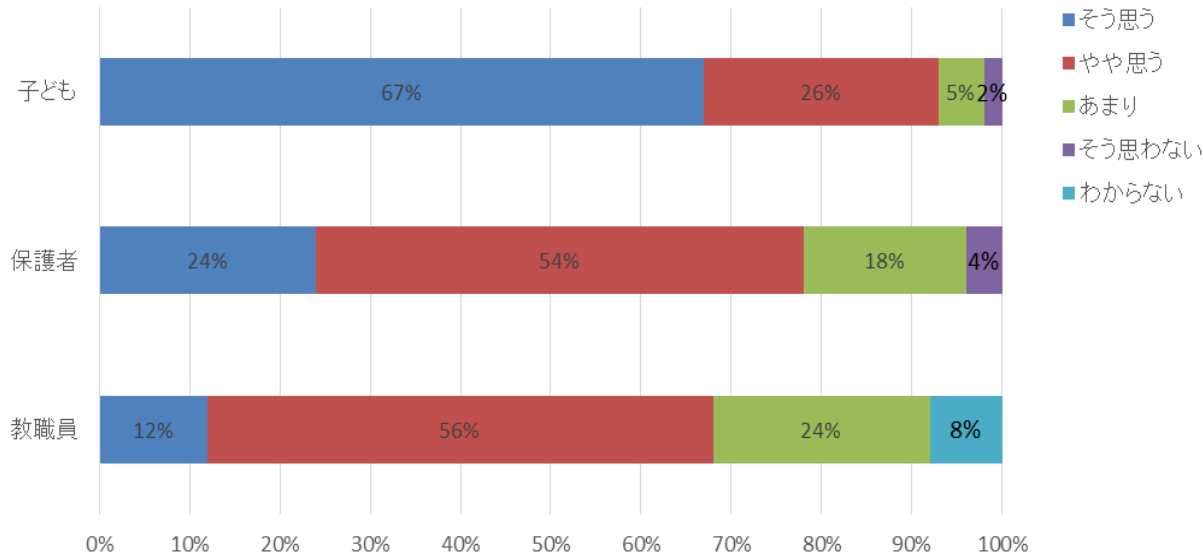
8. 道徳、共生教育への取り組み



8. 道徳・共生*共育

道徳や共生*共育の学習を通して、自分の言動を振り返り、自分自身を見つめなおす時間を大切にしている。子どもたちは学習が楽しいという評価になっているかもしれないが、意欲的に学習に迎えているということは、今後の生活につながると考えている。来年度も「公開ウィーク」を活用した授業公開を行っていく。

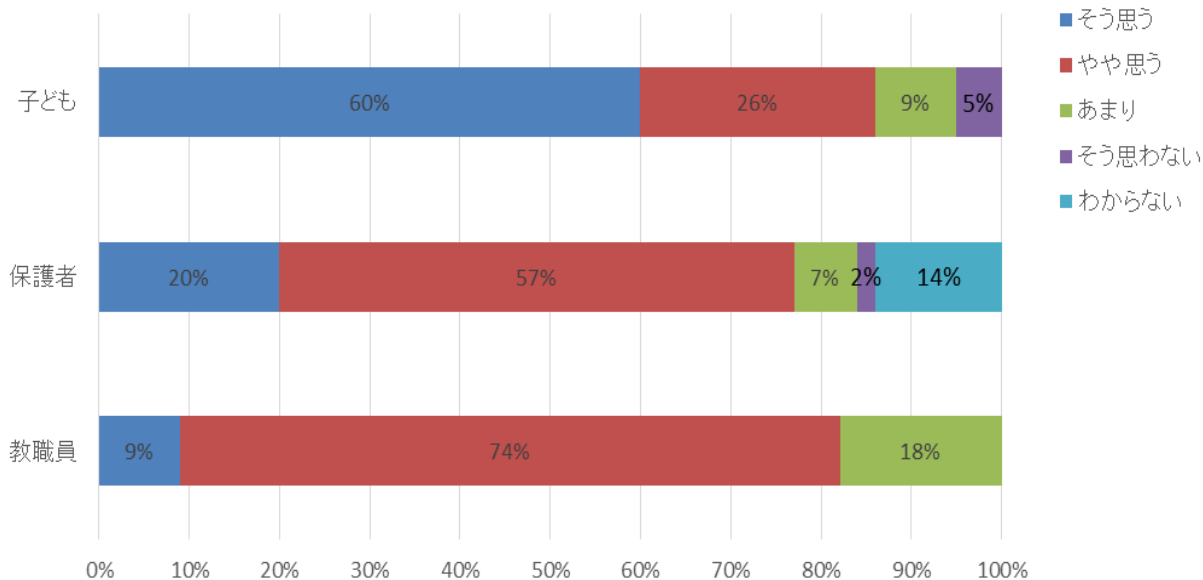
9. 思いやりの心や命を大事にする心の育成



9. 心の育成

友だちに対する思いや気持ちを考えて話をしたり、行動したりできていると答える児童が多いことがうれしい。学校ではそのような姿を多く見ることはできているが、保護者の評価を見る限り、学校外ではあまりできていないという印象がある。まずは教職員が自信をもって子どもに接し、育てていくことが、日常での恒常的な活動につながっていくと考えている。

10. 先生への相談



10. 先生への相談

「そう思う・やや思う」を合わせると、子どもがおよそ80%超、教職員も80%を超えることから、教職員と子どもとの間では、相談を受けたり相談をしたりという良い関係ができていると考える。今後もこの割合が100に近づくように学校全体で取り組んでいきたい。保護者については、教育相談日があることをよりアピールし、有効に活用してもらえるよう工夫が必要だと考える。また、コーディネーターの存在をより多くの方に知ってもらう必要があると考えている。